

令和 5 年度 園評価書

園番号 54

園名 静岡市立和田島こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている, C:あまりできていない, D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
「心豊かでたくましい両河内の子」	自分の「好き」を見つけよう	自ら進んで身近な人と挨拶をする	○保育教諭が積極的に笑顔でのあいさつを心がけることで、子どもたちにも挨拶を交わす楽しさが伝わり、進んで挨拶ができる子が増えた	A	A	○来訪者にも親しみをもって挨拶をする子が多い ○遊びの中で子ども同士、子どもと先生との関わりがとても豊かだと思う	○引き続き保育教諭から積極的に挨拶をし、強制されてではなく自分からやってみようかなと思えるように関わっていく
		自分の好きな遊びを見つけ、じっくりと取り組んだり友達と楽しんだりする	○自分で選ぶことの大切さを意識しながら環境設定し、もってやってみようという気持ちに寄り添いながら関わったり見守ったりすることで、じっくりとくり返し遊ぶ姿が見られる	B	A	○遊びの意図的な仕掛けを随所を感じる	○保育教諭も一緒に遊びながら友達との思いをつないだり、共通の体験を増やしたりすることで、友達と一緒に遊ぶ楽しさが感じられるようにしていく
		もってやってみよう自分なりに工夫したり友達と協力したりしながら遊びをすすめる	○子どもの興味や関心に合わせたり、続きが楽しめたりするよう環境設定を工夫することで、子どもたちが友達と一緒に試行錯誤し、話し合いながら遊びをすすめるようになった	A	B	○今日の遊びが明日につながるよう子どもの思いを大切に環境構成の工夫がされ、繰り返し遊ぶ中で自分の	○「もってやりたい」というつぶやきを大切に受けとめ保育教諭も仲間に入り、子ども同士で考えながら遊びが進められるよう仲立ちしていく

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	遊びや生活を通し異年齢で関わり、思いやりの気持ちを育てる	○異年齢の友達と一緒に生活したり遊んだりすることで、子ども同士が年齢の垣根無く自然に誘い合って遊ぶ姿が見られている	A	A	○子どもたちが安心して自分らしさを出している雰囲気が伝わってくる	○遊びの内容や理解に差があり、遊びが途切れてしまうことがあったので各年齢の発達の違いを考慮しながら関わっていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の生活リズムを大切に、安心して過ごせるようにする	○一人一人と丁寧にコミュニケーションをとりながら心身の体調の変化に気を配るようにした。個人差に配慮した関わりを意識することで、子どもたちが安心して過ごしている	B	A	○日々の遊びや行事の手作り教材など、子どもが遊びたくなる環境づくりの工夫があった	○家庭との連絡を大切に、一人一人の家庭環境を考慮しながら丁寧に関わっていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	「明日もやりたい」と思える環境作りをする	○子どもたちの興味や関心を捉え、環境を変化させたり残して置いたりすることで、「やりたい」の気持ちが膨らみ、日々の遊びを継続させながら楽しむことができた	B	A	○子どもの思い、こだわりを生かしつつ、仕掛ける場面を多く設定していると思う ○子どもがやりたいを見つけられる環境がある。子どもの気持ちを大切にしていることが伝わる	○子どもと一緒に環境を見直し、より遊びやすい状態にしていく。また、環境設定や再構成したところで終わらず、明日へつなげていくための手だてを絶えず意識し実践していく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	交通安全や避難訓練、不審者対応訓練を通して自分の身を守る行動を身につける	○紙芝居を使い、子どもたちに分かりやすく話をしたり、様々な想定で訓練を繰り返したりすることで、身につけてきている。避難訓練や不審者対応訓練では担任が側にいない状態でも近くにいる職員の手指示に従い動くことができていた	A	A	○必要とされている訓練が実施されている。ブライント型訓練も必要	○担任がいない時や、どのような時でも安全が確保できるようにするため、職員間で連携をとり、様々な想定での訓練を今後も繰り返し行っていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	子どもが自ら手洗いやうがいをし、健康に過ごせるよう支援している	○手洗いうがいがいしやすいように掲示したり、子どもが気づいて自分で動けるような言葉がけをすることで、自分から進んで行う子が増えた。しかし、他のことに気が向いていると忘れて雑になったりすることもあった	A	A	○一人一人の子どもを丁寧に捉え、職員間で情報を共有しどの子にも対応できる環境が素晴らしい	○子どもの様子を最後まで見届け必要な時に声をかけていく。また、厚着をしすぎないことや自分で衣服を調整することなども、伝えていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の発達を職員間で理解、共有をし、支援している	○一人ひとり性格やペースに違いがあるため、子どもの姿を職員会議で確認し合いながら、具体的な支援方法について考えていく	A	A	○視点を明確にした研修がそれぞれの先生の学びに繋がりに保育に生かされたと思う	○一人ひとり性格やペースに違いがあるため、子どもの姿を職員会議で確認し合いながら、具体的な支援方法について考えていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	自分の役割に責任をもち、組織として協力し合いながら運営を進めている	○分掌担当者が責任を持ち、見通しをもって計画、準備を進めることができた。また、全職員で協力し合いながら様々な行事を進めることができた	A	A	○両河内の豊かな自然を生かした保育は子ども達の遊びを豊かにしてくれると思う。今後も大事にしてほしい	○職員間の解釈のギャップを埋めるために、密に声を掛け合いながら細かい部分での共通理解を図り、今後も職員が一丸となって園運営を進めていく
6 研 修	(1)研修体制の充実	園内研修で子どもが「これが好き」「明日もやりたい」と感じている姿を捉え、関わりや環境構成について学び合う	○園内研修では子どもの姿や思いを話し合うことで、職員間で共有することができた。そのことで今後大切にしていきたいことが明確になり、学びを保育に生かすことができ、子どもたちの「明日もやりたい」という姿につながった	A	A	○保護者への啓発や講師による講座をすすめることで就学前から入学でのよりスムーズな連携体制を構築していけたらありがたい	○今後も子どもの興味や関心を捉え、「これが好き」「明日もやりたい」と感じられるよう関わったり、環境構成を整えたりができるよう園内研修を重ねていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	季節に合った遊びや、発達に必要な体験が得られるように環境を用意している	○その時々季節に合った体験ができるよう環境を整えたり、園外保育にでかけたりすることで、子どもたちが自発的に考えたり工夫したりしながら遊ぶようになった	A	A	○日々のボードはとても見やすく子ども達の生き生きとした姿が伝わってくる	○子どもの姿や季節に合わせた環境に保育者の願いを重ねて環境構成し、さらにどのように関わるか考えていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	様々な手段で園から情報を発信し、保護者と一緒に子どもの育ちを支えている	○登降園時のお知らせボードでは写真を多く使い、子ども園での活動の様子や子どもの姿がより伝わりやすいように工夫した。子どもの成長が分かるように丁寧に知らせた	A	A	○幼小連携についてかつての『両教振』での連携以上の取り組みができるようになったと思う。継続していききたい	○子どもの成長や日々の様子を伝えられるよう、引き続き掲示物や伝え方を工夫しながら、ご家族と連携し子どもと関わっていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の学校との連携の推進	地区の小中学校と情報交換や交流を深めるとともに課題を共有し連携する	○幼小連絡会で小学校の先生方と交流をすることで、小学校の様子や、卒園した子たちの様子を知ることができた。また、度々小中学校に行かせていただくことで、憧れや親しみを持つことができ、学校への期待が高まった	A	A	○『地域のこども園』として地域の方々もとても大切に思っている。地域のイベント参加に地域の方々が大変喜んでいる	○引き続き小中学校に協力を求め、今後も交流を継続して行っていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	園外保育や地域の行事に参加することで地域の人と関わりをもつ	○地域のイベントに出向いたり、積極的に園外に出かけたりしながら、様々な体験を地域の方の協力のもと行うことができた	A	A		○職員がこの地域について見聞を広げながら積極的に交流し、子どもたちがこの地域が大好きで、地域の人たちに感謝の気持ちがもてる子に育てる保育を行っていく